

平成28年度第1回国立岩手山青少年交流の家施設業務運営委員会議事要旨

日時 平成28年7月13日(水) 13:00~14:25
場所 国立岩手山青少年交流の家 曲り家

出席者 〈施設業務運営委員〉

浅沼道成	岩手大学 人文社会科学部 教授
石川正悦	岩手県立盛岡農業高等学校 校長
大石泰夫	盛岡大学 文学部 教授
菊池啓子	岩手県立陸中海岸青少年の家 所長
村上齐 <small>〈代理〉</small>	滝沢市教育委員会事務局 生涯学習文化課 総括主査
児玉政光	青森県教育庁 生涯学習課長
佐々木由紀子	滝沢市立一本木小学校 校長
沢屋隆世	秋田県教育庁 生涯学習課長
主濱惠悦	滝沢市子ども会育成連合会 会長
高橋仁	一般社団法人盛岡市青年会議所 理事長
武田敏哉	(株)IBC岩手放送 取締役 放送本部長 (復興支援室担当) 編成局長
成瀬啓 <small>〈代理〉</small>	宮城県教育庁 生涯学習課 課長補佐
野場秀輝	岩手県PTA連合会 副会長
久慈孝 <small>〈代理〉</small>	岩手県教育委員会 生涯学習文化課 生涯学習担当課長
横澤繁	岩手県レクリエーション協会 理事長

欠席者 伊藤博章 八戸市教育委員会 教育長
菅原正弘 盛岡市立河南中学校 校長

〈職員〉

松田所長、佐々木次長、東主幹兼総務係長兼管理係長、桑原主任企画指導専門職、中田副主任企画指導専門職、佐々木副主任企画指導専門職、鎌田企画指導専門職、中村企画指導専門職、田口事業推進係長、小綿管理係主任、三浦総務係員

1 挨拶 (所長)

2 日程・資料の確認 (次長)

3 施設業務運営委員及び職員の紹介

4 委員長・副委員長の確認

事務局から、昨年度に引き続き大石委員が委員長、熊谷委員が副委員長であることを確認した。

5 国立青少年教育振興機構 第3期中期目標・中期計画について

所長から、資料に基づき第3期中期目標・中期計画及び「新しい公共型」の管理運営推進の概要について説明があった。委員長から、これを念頭に置いた施設の管理運営を行っていくよう確認がされた。

6 国立岩手山青少年交流の家の運営状況説明等

①平成27年度の運営状況説明

- 1) 看板事業「テンちゃん一家の一週間」の成果等について、企画指導専門職から説明を行った。
- 2) 昨年度1年間の利用者数・満足度などについて、事業推進係長から説明を行った。
- 3) 法人ボランティアの登録者数・活動状況などについて企画指導専門職から説明を行った。

②平成28年度の運営状況・計画等説明

- 1) 「タートルズキャンプ」等の教育事業計画について、桑原主任企画指導専門職から説明を行った。資料86p「新さんりく体験!探検ツアー(仮称)」の名称を「さんりく体験!発見隊」としたことの付言があった。

- 2) 南部曲り家と宮沢賢治を融合させた、曲り家周辺の総合的なエリア開発及び活動プログラム開発について、次長から説明を行った。
- 3) 法人ボランティア養成事業「How Toボランティア」の実施報告及び本年度活動計画等について、企画指導専門職から説明を行った。
- 4) 所内組織図、本年度予算等について主幹からそれぞれ説明を行った。

③協議 意見・質疑応答

委員：平成27年度の月別利用者数について、時期による利用者の傾向等があると思われるが、具体的な傾向はどのようになっているか。また、ニュースレターを発行し滝沢市全戸に回覧・配布を行っているが、今後も継続して施設の広報を行ってほしい。

事業推進係長：昨年度6月においては小学校団体の利用が増加した。また専門学校団体を新規獲得したことや子ども会団体の利用増加も増加要因と考える。1月においては、平成26年度まで教育事業として実施していた「ミュージックキャンプ」を昨年度から研修支援事業（運営を参加団体が行うこと）とし、新たに新規事業を実施したことにより利用者数を増加させることができた。

主幹：ニュースレターについて、滝沢市の協力を得ながら今後も発行していく予定である。当所の利用方法等についてさらに周知を行っていききたい。

委員：①交流の家の備蓄品の状況について、②食事を提供する上で利用者の食物アレルギーの対応方法について、③法人ボランティアの登録者数確保の方法及び他の教育施設等でも活動を行っているのかについて、それぞれ具体的に教えてほしい。

管理係主任：①について、食料は1日3食として400人に2日間提供できる分の水とカロリーメイトを備蓄している。加えて食堂業者から3日分程度食料を提供できるように覚書を交わしている。その他は、避難用品としてリュック、ラジオ、救急セット等を用意している。

主幹：②について、食堂業者が毎月アレルギー表を作成し、これを当所ホームページに公開しているとともに、利用者からアレルギーに関するアンケートを提出させ、文書で確認を行っている。

企画指導専門職：③について、盛岡大学の協力を得てHow Toボランティアを授業の一環として位置付けて実施している。また「日独学生青年リーダー交流」「えいごdeキャンプ」などの事業が近隣の他大学学生へ広まるなどして、法人ボランティアの参加・協力につながっていると考える。他施設の活動について、国立青少年教育振興機構内であれば活動可能である。機構以外での活動については、昨年度に外部施設の要請に基づき活動したことがある。施設側の要請と法人ボランティアの希望のマッチングによると考えられる。

委員長：③について補足として、以前は学生の口コミにより法人ボランティアの登録・参加がなされていたが、盛岡大学ではこの話を受け教養科目として社会教育活動実習という科目を設け、法人ボランティアの活動を授業の一環として位置付けた。これをきっかけとして、交流の家と少しずつ協力体制を強化していった結果が、現在の登録数へとつながり、昨年度の理事長表彰にまでつながったと考える。

委員：環境ボランティアについて、どのように人員確保しているのか。

主幹：当所の環境ボランティア・登山指導員は、OB職員から外部指導員等の紹介をしてもらっている。なお、万が一の事故に備え雇用した上で、従事してもらっている。

本会議において説明された平成28年度の計画等について、委員の意見を取り入れた上で、所に一任して実施していきたい旨が委員長から提案され、承認された。

以上